

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500819		
法人名	医療法人社団 誠道会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼東町6-8-1		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&JivsvsvCd=2170500819-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念「地域に根ざした医療と介護と福祉を誠の心で実践します」をモットーに医療と介護の両方から利用者様をサポートする体制を整えています。
又今までの生活を継続して行なってもらうように、利用者様一人ひとりのペースを十分に把握して生活してもらえるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設14年目である。建物は、玄関がユニット毎にあり、両ユニットを挟んで、コの字型の中庭がある。ホームは施設ではなく、利用者の生活の場である「家」と位置付け、家族や地域の人達と協力し合い、個性を最大限に活かしながら、今までの生活を継続できるよう支援を行っている。また、認知症の進行抑制のため、残存能力の活性化を図り、医療と介護の連携を密に行い、家族の安心にもつなげている。管理者は、働き易い職場環境づくりに努めており、職員からの信頼も厚い。また、職員間のチームワークも良く、永年勤続者が多いホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を事務所に掲示。又職員は名札に携帯いつでも確認できるようにし利用者様の望む生活を実施している。	法人の理念「地域に根差した医療と介護を誠の心で実践する」を基本に、職員は、笑顔・敬意・誠意・愛情を持って、家族の気持ちで利用者の生活を支えることをモットーとし、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや運動会に呼んでもらい交流を図っている。福祉フェスティバルにも小物を利用者様と作り出展している。	毎週、利用者と共に、近隣のゴミ拾いや清掃活動を継続し、地域と交流できるよう取り組んでいる。事業所の畑で異変があった時は、近隣住民が真夜中でも通報してくれた事例もある。小学校の運動会に招待を受けたり、幼稚園児やボランティアとの交流も日常的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人本部から地域の方に向けての勉強会を開催、又運営推進会議に、自治会の方に出席の協力を頂き、認知症患者の症状を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に1回カンファレンスで運営推進会議での重要なポイントを報告し検討が必要な事項については話し合っている。	運営推進会議は、4ヶ月に1回の開催である。運営の実情や利用者の様子・事故報告・困難事例・行事予定等を報告し、意見を交換している。話し合いの中で、参加者の理解やアドバイスを 得て、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの情報をメールで受けながら、行政主催の勉強会などには積極的に参加するように心がけている。又推進会議の場でも積極的に情報交換をしている。	行政とは、メールや電話で連絡を取り合い、行政主催の研修や会議等に積極的に参加している。また、ホームページからも情報を得ている。市の窓口や運営推進会議の中で、ホームの実情を伝え、申請手続きや困難事例を相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロを基本に利用者様の日常生活を快適に過ごしてもらうよう支援している。本人の自由を考え拘束しないようケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを基本とし、研修会で学び、全職員に周知・徹底を図っている。ベッドから転落の恐れがある利用者の場合は、職員の目が行き届く場所にベッドを移動したり、転倒リスクの高い利用者のベッド下にセンサーマットを設置するなど、見守りながらケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会を実施している。又外部での勉強会があれば出来るだけ参加するようにしている。日常では痣がないか注意深く観察し、対応している。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば相談援助していく事としている。研修には積極的に参加していこうと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族納得されるまで説明している。入居後も質問事項があった場合はその都度説明している。又これからの利用方法など聞きながら安心して生活できるように考えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会で家族の要望や意見を聞いて改善事項は対応している。面会時にも出来るだけ声をかけ意見を伺っている。	家族の面会時や家族会の機会に、意見や要望を聞いている。「職員の名前がわかるようにして欲しい」との意見があり、当日の勤務者名をホードに記入し、顔写真付きのネームプレートを玄関に掲示して、対応している。また、「菜の花便り」や担当職員の手書きメッセージで、利用者の様子や暮らしぶりを伝え、家族の理解を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回はカンファレンスを開き現場内の問題点や改善策を話し合っている。又運営に関する問題点は代表者が集う会議に管理者が報告している。	職員の意見や要望は、カンファレンスや毎日の申し送りの場で話し合っている。利用者へのより良い支援の在り方やケアの気づき、業務改善などを話し合い、代表者、管理者は、それらを運営に反映させ、職員の働く意欲を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回は個別に職員と面談を開き現状の把握をしている。又忘年会で功労を称えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を取り入れ力量を元に評価している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の研修に出来るだけ参加。又事業者協議会が集まる場面にも参加し交流している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人に事前アセスメントを行い日々の様子を家族に報告。入居した頃は出来るだけ多くコミュニケーションを図るように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時積極的に職員が交流を持つことで会話から聞き取り解決するようにしている。又、話しやすい環境を作るように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の場面でアセスメントを含む情報を取り出来る限りの能力を活かした支援が出来るように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除洗濯、家事、玄関先の植物の水やりなど、職員と共にすることで、家族という意識を持ち業務を行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を家族に伝えたり、毎月の手紙や新聞で出来る限り日頃の様子を伝えられるようにしている。必要に応じて、家族にお願いするところは依頼し協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に外出等呼びかけ出来る限り家族との生活が絶えないように支援している。	孫や親族の訪問も多く、馴染みの人や知人の面会も増えている。民生委員も利用者の馴染みとなっている。訪問者には、茶でもてなし、再訪につながるよう、雰囲気づくりに心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別性も大切にしているが、集団レクも大切にし利用者同士が協力性を高めるよう心がけている。生活や習慣を考え共同で暮らしやすいように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも相談にのることを伝え安心した上で、退所して頂いている。又法人内でご家族と顔を合わす場面があれば気軽に話しかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を尊重し居室で過ごしたい方は、無理にホールに誘わず、時間をかけ声をかけ見守りを行う。入浴は希望されれば可能な限り要望に沿っている。	暮らし方の希望や思いは、本人の生活歴や日常生活の関わりの中で把握をしている。把握した内容は、記録に残し、出来る限り、希望に沿った生活が送れるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方にアセスメントを出来る限り記入して頂き把握している。必要であれば家族と連絡をとり必要な事を聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のスペースやその日の気分をみながら1日の生活の流れを本人が安心して過ごされるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と本人の意見を交換しその時の状態に合わせて居室の家具やベットの配置を決め安心・安全な生活が出来るように配慮している。	介護計画は、本人・家族の意向を事前に確認し、介護記録の検証とモニタリングを踏まえて作成している。利用者の安心と、安全な生活環境を整え、自立した生活が送れるよう、介護計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や様子を記録。それに基づきプラン作成している。その他利用者から聞いたことなどは必要であれば申し送りで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望が強い時など、施設周辺の散歩や草引きと職員と共に行い、無理に引き止めず、声かけしながら気分転換も行っている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の清掃を職員と共に行いながら、顔見知りになり、声かけてもらっている。又入居の際に自宅での生活習慣を記入して頂き参考になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者の方は法人内の病院に受診。専門医の受診が必要な場合は家族との連絡を密にしながら紹介状を持って適切な病院に受診している。	かかりつけ医は、家族の希望により、ほとんどが、同法人の協力医を選択し、月に2回の往診を受けている。通院は職員が同行し、専門医への受診は、家族が同行している。診察結果は、家族と関係者で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に状態を報告し異常がある時は、病院受診している。又月に2回往診を行い異常の早期発見をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設内の様子を介護サマリーにまとめ、医療機関に情報を提供している。又その後は相談員と情報を共有しながらスムーズな受入が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人と話し合いの場を設け、今後の意向や事業所として出来る事を明確にする事で、本人・家族が望む適切なケアが出来る体制を作っている。必要であれば医療機関や介護施設に協力を依頼している。	契約時に、重度化や終末期について説明をしている。状態の変化によって、その都度、家族・関係者で話し合い、今後の方針を共有し、確認している。常時医療が必要になった場合は、本人・家族が安心できるよう、医療機関や適切な施設を紹介し、看取りは行わない方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応している。又施設内にAED設置。取り扱いに関しても勉強会を毎年実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い避難方法等を周知している。又緊急連絡網を作成する事で協力体制も整えている。 来年は地震等を想定した訓練も実施予定。	防災訓練は、消防署の協力を得て、夜間想定での初期対応や避難訓練を行っている。食料と水の備蓄は、法人本部が管理し、寒さ対策では、毛布を備えている。地域には、自治会を通じて、協力が得られる体制づくりを進めている。	昨年度の目標達成計画の課題を継続し、具体的な協力体制が得られるよう、関係者で話し合い、また、訓練にも反映できることを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要に応じて1対1で、対応したり、プライバシー保護のマニュアルを作成し対応している。	日常の関わりの中で、言葉かけや態度で、人格を傷つけることのないよう対応している。利用者と話すときは、目線を合わせ、わかりやすく、短い表現に努め、指示的にならないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事を居室で、と話される方には、希望通りにして頂いている。基本的に意思を尊重し日々のコミュニケーションしやすい話し合いを心がける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を穏やかに過ごす事を考え気分が乗らない時間や拒否がある時などは時間をずらすなど配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣服は、朝本人が決めたり声かけにより選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝の会で、1日のメニューを利用者に読んでもらいテーブル拭き食器洗いなどを職員と共に行っている。	食事は、職員の手づくり食を提供している。利用者も残存能力を発揮しながら、準備や食器洗いを手伝っている。梅干し作りやゆかり作りなどは、毎年、職員と利用者が楽しみながら共にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回チェック、少ない方はお茶ゼリーや、とろみ、ミキサー、刻み本人に合わせて調理。それでも摂取量が少ない場合は主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせて付き添い見守りを行い、必要であれば介助を行っている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入して、頃合を見計らってトイレの声かけをし、パット汚染を少なくするように努めている。	個々の排泄パターンに合わせ、トイレ誘導をしている。トイレでの排泄により、パッド交換が減り、布下着へと変わった事例もあり、利用者の自信につながっている。夜間は、転倒の恐れがある人は、ポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い食べ物を提供するなど、日頃から便秘予防を心がけている。業務の中で散歩を取り入れるなど軽度の運動する場面を作るように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する方は、毎日声かけをし、入りたい日に入浴して頂いている。お湯の温度も一人一人に調整、その方に合わせた入浴が出来るように配慮している。	入浴は、毎日でも入れるように準備し、利用者の希望を優先している。季節により、ゆず湯や菖蒲湯の日を設けている。身体機能低下の人には、介助者2人で、安心・安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの布団や枕を入居の際に持って来てもらったり、「昼寝をしたい。」と言われれば、居室で休んで頂いたり、ソファで休んだり希望に沿って休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	こまめに薬剤情報を見て副作用などを日常からチェックしていき、異常があれば医療機関に報告、指示をもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読んで頂いたり、日記を記入、掃除の得意な方には疲れないように見守りながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑に出かけたり、小学校の運動会に見学に行ったり、家族の方と喫茶店に行かれています。	日常的に周辺を散策したり、中庭で日光浴を楽しんでいる。また、事業所の畑へ、野菜の育ち具合を見に行く人もある。家族の協力を得て、喫茶店や外食に行ったり、季節の外出行事として、ハナミズキや藤の花見などにも出かけている。	

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預かったりしていない。持参などもされない為に、支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族への連絡を希望される時は、職員が家族へ連絡を取り、本人に代わって用件を伝えるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場は窓によしずを置き西日を遮っている。季節感を味わって頂けるように、お雛さま、クリスマスツリーをホールに設置している。利用者様は空気の入替えて窓を開けて気分を変えて頂いている。	共用空間の壁面には、利用者と職員合作の作品を飾っている。廊下にある大きな花瓶には、秋を感じられるよう、ススキやホトギスの花など、たくさんの花を活け、利用者が季節を感じられるよう工夫している。清掃や換気をこまめに行い、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで話をしてもらったり、玄関口や季節のよい時は中庭で、緑を見ながらお茶を飲んだりしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談してベッドの位置を決めてもらったり、利用者様が自宅で使っていたテーブル・椅子・時計を持ってきてもらい使用している。使い慣れた茶碗やスプーンなども持参して頂いている。	居室には、使い慣れた筆筒や椅子、机、時計などを持ち込み、使い易く配置をしている。また、掃除が行き届いて清潔感があり、安心して生活ができる居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にはそれぞれネームを掲げて利用者様に分かりやすくしている。カレンダーを居室、廊下に貼って月日がわかるようにしている。		